

町中学生代表 広島平和記念式典へ



8月6日に開催された広島平和記念式典へ参加するため、町中学生派遣団が8月4日から6日まで広島市を訪問しました。町派遣として第4回目となる今年は、10名の中学生が町の代表として訪問し、73年前の原爆の実相に触れました。そして被爆者体験談を聞き、心で感じた貴重な経験を通して、平和への誓いを新たにしました。

原爆ドームを見て

大倉羅偉さん(那須中央中 3年)

原爆ドームを目の前にして、自分はその時の場所にいたように感じました。人々が倒れ、木々も草花そして建物もほぼ無く、人々の嘆き声が聞こえてくる場所。そのイメージを伝えてくれる原爆ドームを決して無くしてはならないと思ひ、そして、平和が続いて欲しいと強く思いました。

平山将真さん(那須中央中 3年)

原爆ドームを実際に見て、写真などで見たときと全く違い、伝わってくるものがありました。鉄骨はむき出しで、崩れ落ちているレンガ。原爆が落ち、一瞬にして焼け野原となる広島光景が浮かび、当時の様子や人々の思いを自分に伝えてくるように感じました。

平和記念資料館を訪ねて

佐藤果歩さん(那須中央中 3年)

私が特に印象に残っている

ことは、平和記念資料館で見た展示品です。幼い子どもたちの写真や制服などがありました。そこで、原爆に関するさまざまなことを知ることができました。外国人にインタビューなどもして、貴重な経験をする事ができました。

鈴木開斗さん(那須中央中 2年)

平和記念資料館の中を見て、私一つ一つの作品に目がとまりました。その詩の最後には、「ただ水が欲しかった」と書いてあるのです。今では、水が無いなど考えられません。私はその詩を読んで、当時の生活のつらさを感じました。平和の大切さを学ぶことができました。

被爆者体験談を聞いて

鈴木瑞穂さん(那須中央中 2年)

実際に被爆した方の話を聞くという貴重な体験をしました。話を聞いていると自分が73年前の広島にいるような気持ちになり、とても怖かったです。私が研修で学んだことをより多くの人に伝えることで、たくさんの方が平和への思いを強く持つて欲しいと思います。

大森百花さん(那須中 2年)

私は、被爆したの方のお話を聞いて深く心に残っていることがあります。それは、被爆された方が「母親と一緒に死にたかった」と言っていたことです。今でもそう思うということは、その方にとって本当に

悲しく、つらかったことなんだと思うと心が打たれました。

平和記念式典に参加して

荒井聖翔さん(那須中央中 1年)

あの悲劇から73年が経ち、私たちは平成30年度広島平和記念式典に参加しました。式典が始まり、「8時15分」エノラ・ゲイから落ちた一発の爆弾が広島の大地を奪った時刻に、黙とうを捧げました。悲劇を体験していかない私にとって、貴重な50分間の式典でした。平和が一番だと改めて思いました。

池本森陽さん(那須中 3年)

テレビなどでよく見る式典でしたが、実際に参加すると会場からは緊張感が伝わってきました。参加することで、戦争の恐ろしさや平和の尊さを感じることができました。とても貴重で充実した3日間を過ごすことができました。

サブリーダーとして

郷間倉良さん(那須中 3年)

私は、広島派遣でサブリーダーとして活動をしました。リーダーがみんなを引っ張ってくれたので、私は雰囲気作りにも恵まれ、雰囲気よく3日間を過ごしました。自分の役割をまっとうできたと思います。

リーダーとして

三森楓花さん(那須中央中 3年)

私は今回の広島派遣で、リーダーとして参加しました。全員に指示したり、あいさつ・スピーチを行ったりすることはとても大変で、時々やめたいと思うこともありましたが、最後までやり遂げることができました。このメンバーで広島に行くことができ、本当によかったです。

9月7日(金)まで町役場町民ホール(1階)で、団員の活動報告や感想を展示します。

また、9月30日(日)に余笹川ふれあい公園で開催される那須九尾まつりでも活動内容を展示するほか、団員による活動紹介を行いますので、ぜひご来場ください。

▼問合せ 学校教育課
☎ 6922

